

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500645		
法人名	有限会社 飛翔会		
事業所名	グループホーム ゆず(1ユニット目)		
所在地	岐阜県各務原市那加西市場町5丁目120番地		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年11月4日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各務原市重点風景地区に指定されている旗本徳山陣屋周辺の歴史ある趣深い集落にあり、緑豊かな環境の中で落ち着いた生活を送って頂けます。開設当初からの職員も多く入居者の方と馴染みの関係を作っています。避難滑り台、消火スプリンクラー、火災通報装置、停電時でも電気設備等を稼働する事が出来る非常用発電機やコロナウイルス等施設内療養を求められた場合など療養居室を陰圧にし館内にウイルスの流出を最小限に抑える陰圧装置等充実した安全設備を完備し安心して暮らして頂けます。また地域の行事や防災訓練等にも積極的に参加をさせていただき地域に根ざしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai-akensaku.nhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detai_022_kani=true&amp;I_gyosyoCd=2170500645-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kai-akensaku.nhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detai_022_kani=true&amp;I_gyosyoCd=2170500645-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年9月29日

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者が住み慣れた地域で楽しく過ごせるよう、常に利用者が主体者であることを念頭に置いたケアに取り組んでいる。食事や入浴時間など一人ひとりの日常生活の違いにも対応するように努めている。職員の定着率も良く利用者や馴染みの関係や信頼関係を築いて利用者が思ったことを言うように支援している。管理者は、清掃活動等の地域行事に積極的に参加して、築き上げた関係の維持や災害時の協力依頼をしている。市町村とも依頼や要望を受けたり、相談したりして協力関係を築いている。休みや勤務時間の要望、現場の提案にも対応して、働きやすい環境を作っている。近所の協力医とは、急変時の夜間対応も可能で些細なことも相談出来、家族・利用者・職員の安心に繋がっている。業務継続計画の取り組みとして非常用発電機や感染症蔓延防止対策用の陰圧装置の設置等積極的に取り組んでいる事業所である。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしてのホームの役割を理解し全職員が理念を共有している。コロナ禍であり活動は制限されるが地域の行事や日常の交流などを通し入居者や職員が地域と馴染んだ生活が出来るようにしている。	職員は、「気づき、目配り、気配り、心配り」の理念を業務の基盤として、利用者のケアに取り組んでいる。ヒヤリハット報告にも何が足りなかったか等を会議で話し合っって理念に振り返り実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に加入し、自治会の清掃やイベントに参加することで地域の方との付き合いを深めています。また畑の収穫物等のおすそ分けや、回覧板の受け渡し時などに情報交換するなど交流を図っている。	自治会の自主防災訓練、廃品回収、清掃活動等に参加して事業所の理解に繋げている。近所の方に事業所周りの草刈や野菜畑の草取りをしてもらったり、野菜作りを教えてもらったりして交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校と協議し「こども110番の家」として活動しています。また地域の小学校の授業の一環として小学生の訪問(現在は休止中)を受け入れ入居者の皆さんと交流するなどし理解を深めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ対応として文章のやり取りを基に自治会、シニアクラブ、民生委員、行政、ご家族の方々に参加頂き開催し意見交換を行い運営に反映しています。この会議を通し近隣の方によりご認知を頂く様になりました。	コロナ禍のため書面会議で行う挨拶文に議題に対する報告書を添付して議題毎に返答を記載してもらえるよう回答用紙と返信封筒を同封して意見等をもらっている。参加者からの返答や意見をまとめ管理者からの説明と改善策等を加えた議事録を返信している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にご参加頂いた時や介護保険課を訪問し些細な疑問点の確認や、また市への要望を求められる事など連携を図らせていただいています。	保険制度や現場で発生する疑問点を気軽に相談したり、ケースによっては事業所としての意見を求められる事もあり互いに協力し合っている。市の介護事業などにも要請があれば積極的に協力するなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束についての指針・取り組み」を整備しそれに基づき研修や検証を行っています。また3ヶ月に1度開催している適正化委員会では問題の見極めや指針の再確認などを行い職員に周知、共有する事としています。	身体拘束適正化委員会を定期的に行い、身体拘束をなくして事故を防ぐ介護、スピーチロックにおいても主体者は利用者であることを意識して対応するように事例を上げて勉強会をしている。毎回、自己点検シートで振り返り身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し防止の徹底に努めています。またzoom研修や地域ケア会議で開催される勉強会等で虐待防止について学んでいます。身体拘束適正化と結び付け職員の研修を行っています。		

グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士と連携して入居者に後見人の設定をおこなう等権利擁護について取り組みの経験があります。また後見人の付いた方も何名もご入居頂いた経験もあり、市社会福祉課と連携を図りご本人の権利を守るべく慎重に対応しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し書面と口頭によりご説明を行い契約書を2部作成し双方が1部ずつ保管します。契約内容に変更がある場合は遅滞なく文章にし双方で確認、保管しています。毎回契約に至る経緯は詳細に運営推進委員会で報告しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご参加頂きご意見を伺っております。また介護主任やケアマネへメールなどで気安く連絡が取れる様にしています。また代表者が現場で勤務している事もあり迅速に要望をお聞きでき運営に反映させる事が可能です。	事業所便りで利用者の暮らしぶりを知らせて意見や要望を聞いている。動画で知らせる事もある。連絡は電話の他にメールを活用して気安く連絡し合えるよう配慮している。コロナ禍での面会は玄関ホールのガラス越しでインターホンで対面して話をしながら身近に感じてもらえるよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の中、また個別に意見要望を聞き運営に反映しています。また代表者が現場で勤務している事もありダイレクトに要望を聞き運営に反映させる事が可能です。	管理者は、日常業務中や会議で提案や要望を聞いている。休みや給与に関する要望、勤務時間等家庭の事情に合わせられるよう働きやすい環境を整えることにも努めている。利用者間で問題が生じないよう過ごしやすい環境のためのユニット移動の提案等、現場の意見を大切に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が勤務に入っていることもあり職員の勤務状況、個々の考え方の把握をし環境整備や処遇について思案し改善へ繋げております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で勉強会を催したり外部の研修会議に参加しています。また地域の行事に参加してもらい地域とのつながりを直に感じてもらう様にも取り組んでいます。任意の外部研修においても費用は施設負担で取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	担当区域の包括支援センターで毎月行われる「地域ケア会議」(現在zoom)では他の介護事業者とグループワークを行い交流を深めたり、情報交換を行っています。現在はコロナ罹患についての情報共有を行い蔓延の予防としています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される方の不安を早期に取り除くためご本人の生活歴、趣味、嗜好などの把握に努めます。また入居当初はご家族との連携をより密にし本人が安心して生活できるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を検討される段階では直接もしくはお電話で何でもお話をうかがいます。また入居当初はご様子を適宜お電話やメールでお知らせしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が当ホームで日常生活活動が可能か主治医の意見も伺い判断し当ホームで対応が可能であれば入居へむけたお話を、対応が難しい場合は他サービスの紹介をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共に暮らすという意識を持ち、一方通行の関係にならぬ様に相互扶助の精神を以って信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的な問題や突発的な出来事等、ホームの判断だけではなく、ご家族に連絡し一緒に考える体制を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方に手紙や電話で近況をお伝えし会わなくても関係が途切れない支援を心掛けています。コロナ禍の面会はガラス戸越しにインターフォンを用いて非接触とし遠隔ではなく存在を身近に感じて頂く様に支援しています。	季節の便りや絵手紙を出す手伝いをしたり、家族や友人からの電話を取り次いだりして馴染みの関係が途切れないよう支援している。携帯電話を使用している人もいる。インターホンで玄関でのガラス越しの面会を行い家族との関係継続に努めている。家族を通じて友人との面会も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士関わり合う場面を設定したり、状況によっては距離をとったり、主治医の意見も伺い一人ひとりの状況を把握し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	症状が改善し退居された方が遊びに訪れる事や、ご家族様より相談事を受ける事もあります。すべてのご家族ではありませんが退居後も季節の便りを交わしたりと交流が続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が何を求めているか、何に不安を感じているか生活の様子や会話、時には訴えの中から汲み取り本人の思いに対する対応を職員間で共有し思いを叶えられるように対応しています。	信頼関係を築くようにして共感したり、昔話や生活歴から仕事や趣味の話をしたりして思いの把握に努めている。言われない人には、表情や行動から感じとり思いに寄り添えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービス事業者より情報提供を頂いたり、ご本人を始めご家族より生活歴等の聞き取り、またご自宅へ訪問し居室を拝見する等入居者の方の生活を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	すべての職員が入居者個人の一日のリズムを把握しています。また毎日定時に検温、血圧測定を行い身体状況の変化に気を配っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	接遇日誌、業務日誌、職員会議録の記入に際し主治医や各関係者、職員の意見を反映しやすくし介護計画の作成に役立てている。	電話やメールで家族の要望を聞き、1時間毎に記録する接遇日誌や担当職員が行うモニタリングを基に職員会議で話し合っ介護計画を作成している。状態に変化があれば協力医の意見も取り入れ、家族に報告して見直し変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の接遇日誌を作成し介護計画の実践を確認しています。また職員間の情報の共有は業務日誌にて行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ日常生活でのニーズ以外にも可能な限りお応えしています。		

グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前は地域のボランティアをお招きしたり包括支援センター等のイベントに参加していました。現在は地域の方が集う公園やシニアクラブの催しに近からずも遠からず関わっております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科の協力医の指導や往診を受けております。ご本人やご家族の要望を伝え安心した生活が送れるよう支援しています。また協力医以外への通院についても包括的な介護サービスの一環として理解し対応しています。	入居時に協力医の説明をし変更は自由である旨を伝え選択してもらっている。協力医は近所で急変時夜間でも対応可能で安心である。訪問診療前に一人ひとりの状態を伝え、診察後に意見をもらっている。専門医への受診は、事業所が行い家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さなことでも現場で不安に思う事は協力医に連絡し看護師、医師に指示を頂く体制を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供、ソーシャルワーカーと協議し退院時の調整、また居室の確保等退院の見込みのある方が安心して入居できるよう整備しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医の居宅管理指導に則りご家族と十分協議しホームでの継続ケア、もしくは入院の見極めを行っています。また医師の管理の下にホームでの看取りにご納得いただいたご家族様には「看取りについての同意書」をご提出いただいています。	入居時に事業所の方針を説明している。状態の変化に伴い医師から家族に説明してもらい、家族の意向に添えるよう話し合い情報を共有しながら終末期の支援に取り組んでいる。最期を家族も一緒に過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医の指示により救急の要請を行います。連絡が取れない状況にある時は施設の緊急時マニュアルに沿って救急の要請をします。またAED用い万が一の場面に対応します。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者も参加し年2回の消防・1回の災害時避難訓練を実地し運営推進会議の場で委員に報告し助言を頂いている。食糧や防寒具の備蓄もあり近隣の方の一時的な避難場所として自治会にご提案しています。また消防団に施設の概要(定員、見取り図等)を提出し協力を依頼しております。	避難訓練は毎回、日中と夜間想定を利用者も参加して行い、消火訓練や災害訓練も実施している。備蓄品や自家発電設備があり、近隣住民の一時的な避難場所として提案し、災害時の協力も依頼している。地元の消防団にも、事業所の形態や見取り図を提出して協力依頼をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務日誌や処遇日誌は目につかない場所で保管しています、声かけも入居者が年長者であることを明確に表現し気分を害されないよう配慮しています。また居室扉の開放を望む方には暖簾やつい立を配置しています。	言葉づかいや対応が馴れ合いにならないように気をつけ、適切でない時は互いに注意し合い、会議では全体のこととして話し、心当たりのある人が気づいてくれることを期待している。居室は、必ずノックをして入室し、各所の扉の開閉にも気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思ったことを声にしやすいように職員との相性を考慮します。また普段から信頼関係を築くよう配慮しています。また表情や行動から思いを推測できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律のルールやスケジュールに沿った生活以外にも対応しています。個々の日常生活能力に違いがあるため個人を重視したスケジュールで対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を適宜お願いし希望の方は施設内で散髪等行っています。化粧品、整髪料や衣類を一緒に購入しに出かけたり利用者の嗜好に配慮しています。またお化粧のイベントを設け楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者の能力や性格を把握した上で配膳や調理、座席配置をお願いしています。食事時は干渉を出来るだけ控え本人の意思を尊重します。また居室での食事を希望される方には部屋出し対応をしています。	畑でとれた物や近所からもらった新鮮な野菜で利用者の好みを参考に調理している。ジャガイモの皮むき等野菜の下ごしらえと一緒にやっている。くり・いも・筍ご飯やおせち等季節のメニューや誕生日のご馳走を楽しんでいる。おはぎ、ワッフル、たこ焼きのおやつ作りも一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量や食事を観察記録しています。また個人の噛む力や、飲み込み、むせ等に考慮した飲食物の提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な範囲はご自分で、介助が必要な場面は職員がお手伝いします。希望者は月に一度程歯科検診を受ける事が出来ます。また口腔ケア勉強会にも参加しています。		

グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンの把握に努めトイレへの誘導を行っています。またポータブル使用を希望される方にはプライバシーの確保や衛生を保てるよう配慮しています。	昼夜共に出来る限りトイレでの排泄を基本とした支援に取り組んでいる。寝たきりでオムツを使用している様子から二人介助でトイレでの排泄に努めている。自立の人やポータブルを使用する人には、プライバシーに配慮して見守りを行っている。オムツからリハビリパンツになった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的なトイレ誘導や適度な運動、排便を促す飲食物の摂取に配慮しています。また自然排便が困難な方にはかかりつけ医の指示に従い服薬等で管理しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	見守り状態でご自分で入る事の出来る方は就寝前等出来る限り希望に沿った入浴が出来る様、個々の状態に合わせた対応をしています。また敬遠される方にも入浴する気になって頂く様促し本人の意思決定を大切にします。	午前、午後、夜と利用者の好きな時間に入浴でき、希望すれば毎日の入浴も可能である。入浴を好まない人には時間を変えたり、他職員が誘ったりして本人の意志にて入浴出来るように支援している。柚子や菖蒲で季節を味わったり、好みの洗顔フォーム等を使ったりして入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はプライベートが確保されています、共有スペースと個人スペースの使い分けをして寛ぎや睡眠に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり名前の明記された薬箱を用い誤飲防止に努めています。居宅管理指導をして頂き、入居者の病状留意点分かるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や畑仕事等の日課やカラオケや絵を描くなど趣味についても当たり前の日常生活が送れるよう可能な限り支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は入居者の状況、状態に合わせて、散歩や買い物で日常的に外出される方や、家族やなじみの方へ働きかけをし宿泊を伴う帰宅や、小旅行をされる方もおられました。コロナの心配が減少しましたら以前の様に支援して参ります。	散歩、公園の桜や鯉のぼり見学に出かけている。市が催す展覧会に参加し事業所の紹介ブースを見学して買い物をして来た。ペランダで昼食やおやつをして外食気分を味わっている。管理者は、コロナ禍により例年のような外出が出来ないため、利用者の楽しみ事が少なくなってしまったことを心配している。	コロナ禍が収束した折りに、今までのように外出をしたり、利用者が楽しみにしている特別養護老人ホームの秋祭りに参加したりして家族・馴染みの方や地域の人との関わりを深められることを期待したい。



グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者によっては金銭をご自分で管理されています。ホームに管理を委ねられる場合は出納帳と領収書により金銭の出入りをご家族にご報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要求に応じて、季節の便りを出すお手伝いをしたり、電話の利用をいただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節ごとの飾りを施しています。脱衣所やトイレも安全を確保した上プライバシーに配慮しています。すべてのカーテンを遮光とし外光に敏感に反応する方へ配慮をしています。また季節によっては外気を取り込む工夫をしています。	リビング、廊下には利用者と職員で作成した季節のちぎり絵を飾り、各自で作った吊飾りを居室入口に付けている。トイレ、脱衣所にエアコンを取り付けヒートショックにも配慮している。清掃が行き届き、定期的に消毒や換気を行い、快適に過ごせて感染予防対策にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで寛いだり入居者の居室に集まってテレビを観たり、畑や花壇の手入れをしたり共有空間においても個々の活動や交流が出来るよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に働きかけ自宅で使用していた物を出来る限りお持ち頂き使い慣れた物や大切な物をそばに置き落ち着ける空間を作っています。	自宅で暮らしていた時と変化がない様に使っていた家具・ラジオ・寝具等を持参し、家族写真や趣味の作品を飾っている。昼食後は居室で編物・読書・昼寝をする等落ち着いた環境で自由に過ごしている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には家族の了解を得てネームプレートをつけてあります。目印を置いたり自室が分かりやすいような居室もあります。トイレに頻回に通われる方はトイレに近い居室を利用して頂いたり、廊下には障害物を置かないようにしています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500645		
法人名	有限会社 飛翔会		
事業所名	グループホーム ゆず(2ユニット目)		
所在地	岐阜県各務原市那加西市場町5丁目120番地		
自己評価作成日	令和4年8月1日	評価結果市町村受理日	令和4年11月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kai-akensaku.mhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detai_022_kani=true&amp;I_gyosyoCd=2170500645-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kai-akensaku.mhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detai_022_kani=true&amp;I_gyosyoCd=2170500645-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年9月29日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしてのホームの役割を理解し全職員が理念を共有している。コロナ禍であり活動は制限されるが地域の行事や日常の交流などを通し入居者や職員が地域と馴染んだ生活が出来るようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元自治会に加入し、自治会の清掃やイベントに参加することで地域の方のお付き合いを深めています。また畑の収穫物等のおすそ分けや、回覧板の受け渡し時などに情報交換するなど交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の小学校と協議し「こども110番の家」として活動しています。また地域の小学校の授業の一環として小学生の訪問(現在は休止中)を受け入れ入居者の皆さんと交流するなどし理解を深めていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ対応として文章のやり取りを基に自治会、シニアクラブ、民生委員、行政、ご家族の方々に参加頂き開催し意見交換を行い運営に反映しています。この会議を通し近隣の方によりご認知を頂く様になりました。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にご参加頂いた時や介護保険課を訪問し些細な疑問点の確認や、また市への要望を求められる事など連携を図らせていただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束についての指針・取り組み」を整備しそれに基づき研修や検証を行っています。また3ヶ月に1度開催している適正化委員会では問題の見極めや指針の再確認などを行い職員に周知、共有する事としています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを整備し防止の徹底に努めています。またzoom研修や地域ケア会議で開催される勉強会等で虐待防止について学んでいます。身体拘束適正化と結び付け職員の研修を行っています。		

グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	司法書士と連携して入居者に後見人の設定をおこなう等権利擁護について取り組みの経験があります。また後見人の付いた方も何名もご入居頂いた経験もあり、市社会福祉課と連携を図りご本人の権利を守るべく慎重に対応しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に際し書面と口頭によりご説明を行い契約書を2部作成し双方が1部ずつ保管します。契約内容に変更がある場合は遅滞なく文章にし双方で確認、保管しています。毎回契約に至る経緯は詳細に運営推進委員会で報告しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご参加頂きご意見を伺っております。また介護主任やケアマネメールなどで気安く連絡が取れる様にしています。また代表者が現場で勤務している事もあり迅速に要望をお聞きでき運営に反映させる事が可能です。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日常の中、また個別に意見要望を聞き運営に反映しています。また代表者が現場で勤務している事もありダイレクトに要望を聞き運営に反映させる事が可能です。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が勤務に入っていることもあり職員の勤務状況、個々の考え方の把握をし環境整備や処遇について思案し改善へ繋げております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で勉強会を催したり外部の研修会議に参加しています。また地域の行事に参加をしてもらい地域とのつながりを直に感じてもらう様にも取り組んでいます。任意の外部研修においても費用は施設負担で取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	担当区域の包括支援センターで毎月行われる「地域ケア会議」(現在zoom)では他の介護事業者とグループワークを行い交流を深めたり、情報交換を行っています。現在はコロナ罹患についての情報共有を行い蔓延の予防としています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される方の不安を早期に取り除くためご本人の生活歴、趣味、嗜好などの把握に努めます。また入居当初はご家族との連携をより密にし本人が安心して生活できるよう配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を検討される段階では直接もしくはお電話で何度もお話をうかがいます。また入居当初はご様子を適宜お電話やメールでお知らせしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が当ホームで日常生活活動が可能か主治医の意見も伺い判断し当ホームで対応が可能であれば入居へむけたお話を、対応が難しい場合は他サービスの紹介をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者と共に暮らすという意識を持ち、一方通行の関係にならぬ様に相互扶助の精神を以って信頼関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的な問題や突発的な出来事等、ホームの判断だけではなく、ご家族に連絡し一緒に考える体制を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の方に手紙や電話で近況をお伝えし会わなくても関係が途絶えない支援を心掛けています。コロナ禍の面会はガラス戸越しにインターフォンを用いて非接触とし遠隔ではなく存在を身近に感じて頂く様に支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士関わり合う場面を設定したり、状況によっては距離をとったり、主治医の意見も伺い一人ひとりの状況を把握し支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	症状が改善し退居された方が遊びに訪れる事や、ご家族様より相談事を受ける事もあります。すべてのご家族ではありませんが退居後も季節の便りを交わしたりと交流が続いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人が何を求めているか、何に不安を感じているか生活の様子や会話、時には訴えの中から汲み取り本人の思いに対する対応を職員間で共有し思いを叶えられるように対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービス事業者より情報提供を頂いたり、ご本人を始めご家族より生活歴等の聞き取り、またご自宅へ訪問し居室を拝見する等入居者の方の生活を把握するよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	すべての職員が入居者個人の一日のリズムを把握しています。また毎日定時に検温、血圧測定を行い身体状況の変化に気を配っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	接遇日誌、業務日誌、職員会議録の記入に際し主治医や各関係者、職員の意見を反映しやすくし介護計画の作成に役立っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の接遇日誌を作成し介護計画の実践を確認しています。また職員間の情報の共有は業務日誌にて行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の要望に応じ日常生活でのニーズ以外にも可能な限りお応えしています。		

グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ以前は地域のボランティアをお招きしたり包括支援センター等のイベントに参加していました。現在は地域の方が集う公園やシニアクラブの催しに近からずも遠からず関わっております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科の協力医の指導や往診を受けております。ご本人やご家族の要望を伝え安心して生活が送れるよう支援しています。また協力医以外への通院に関しても包括的な介護サービスの一環として理解し対応しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さなことでも現場で不安に思う事は協力医院に連絡し看護師、医師に指示を頂く体制を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供、ソーシャルワーカーと協議し退院時の調整、また居室の確保等退院の見込みのある方が安心して入居できるよう整備しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医院の居宅管理指導に則りご家族と十分協議しホームでの継続ケア、もしくは入院の見極めを行っています。また医師の管理の下にホームでの看取りにご納得いただいたご家族様には「看取りについての同意書」をご提出いただいています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力医の指示により救急の要請行います。連絡が取れない状況にある時は施設の緊急時マニュアルに沿って救急の要請をします。またAED用い万が一の場面に对应します。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者も参加し年2回の消防・1回の災害時避難訓練を実地し運営推進会議の場で委員に報告し助言を頂いている。食糧や防寒具の備蓄もあり近隣の方の一時的な避難場所として自治会ご提案しています。また消防団に施設の概要(定員、見取り図等)を提出し協力を依頼しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務日誌や処遇日誌は目につかない場所で保管しています、声かけも入居者が年長者であることを明確に表現し気分を害されないよう配慮しています。また居室扉の開放を望む方には暖簾やつい立を配置しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思ったことを声にしやすいように職員との相性を考慮します。また普段から信頼関係を築くよう配慮しています。また表情や行動から思いを推測できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一律のルールやスケジュールに沿った生活以外にも対応しています。個々の日常生活能力に違いがあるため個人を重視したスケジュールで対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を適宜お願いし希望の方は施設内で散髪等行っています。化粧品、整髪料や衣類と一緒に購入しに出かけたり利用者の嗜好に配慮しています。またお化粧のイベントを設け楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者の能力や性格を把握した上で配膳や調理、座席配置をお願いしています。食事時は干渉を出来るだけ控え本人の意思を尊重します。また居室での食事を希望される方には部屋出し対応をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分摂取量や食事量を観察記録しています。また個人の噛む力や、飲み込み、むせ等に考慮した飲食物の提供をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な範囲はご自分で、介助が必要な場面は職員がお手伝いします。希望者は月に一度程歯科検診を受ける事が出来ます。また口腔ケア勉強会にも参加しています。		



グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者個々の排泄パターンの把握に努めトイレへの誘導を行っています。またポータブル使用を希望される方にはプライバシーの確保や衛生を保てるよう配慮しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的なトイレ誘導や適度な運動、排便を促す飲食物の摂取に配慮しています。また自然排便が困難な方にはかかりつけ医の指示に従い服薬等で管理しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	見守り状態でご自分で入る事の出来る方は就寝前等出来る限り希望に沿った入浴が出来る様、個々の状態に合わせた対応をしています。また敬遠される方にも入浴する気になって頂く様促し本人の意思決定を大切にします。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はプライベートが確保されています、共有スペースと個人スペースの使い分けをして寛ぎや睡眠に配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり名前の明記された薬箱を用い誤飲防止に努めています。居宅管理指導をして頂き、入居者の病状留意点が分かるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や畑仕事等の日課やカラオケや絵を描くなど趣味についても当たり前の日常生活が送れるよう可能な限り支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以前は入居者の状況、状態に合わせて、散歩や買い物で日常的に外出される方や、家族やなじみの方へ働きかけをし宿泊を伴う帰宅や、小旅行をされる方もおられました。コロナの心配が減少しましたら以前の様に支援して参ります。		

グループホーム ゆず

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者によっては金銭をご自分で管理されています。ホームに管理を委ねられる場合は出納帳と領収書により金銭の出入りをご家族にご報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の要求に応じて、季節の便りを出すお手伝いをしたり、電話の利用をしていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節ごとの飾りを施しています。脱衣所やトイレも安全を確保した上ブライバシーに配慮しています。すべてのカーテンを遮光とし外光に敏感に反応する方へ配慮をしています。また季節によっては外気を取り込む工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで寛いだり入居者の居室に集まってテレビを観たり、畑や花壇の手入れをしたり共有空間においても個々の活動や交流が出来るよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様に働きかけ自宅で使用していた物を出来る限りお持ち頂き使い慣れた物や大切な物をそばに置き落ち着ける空間を作っています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には家族の了解を得てネームプレートをつけてあります。目印を置いたりし自室が分かりやすいような居室もあります。トイレに頻回に通われる方はトイレに近い居室を利用して頂いたり、廊下には障害物を置かないようにしています。		